



# 中東・イラン経済情勢

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部 中東アフリカ課

2026年6月15日

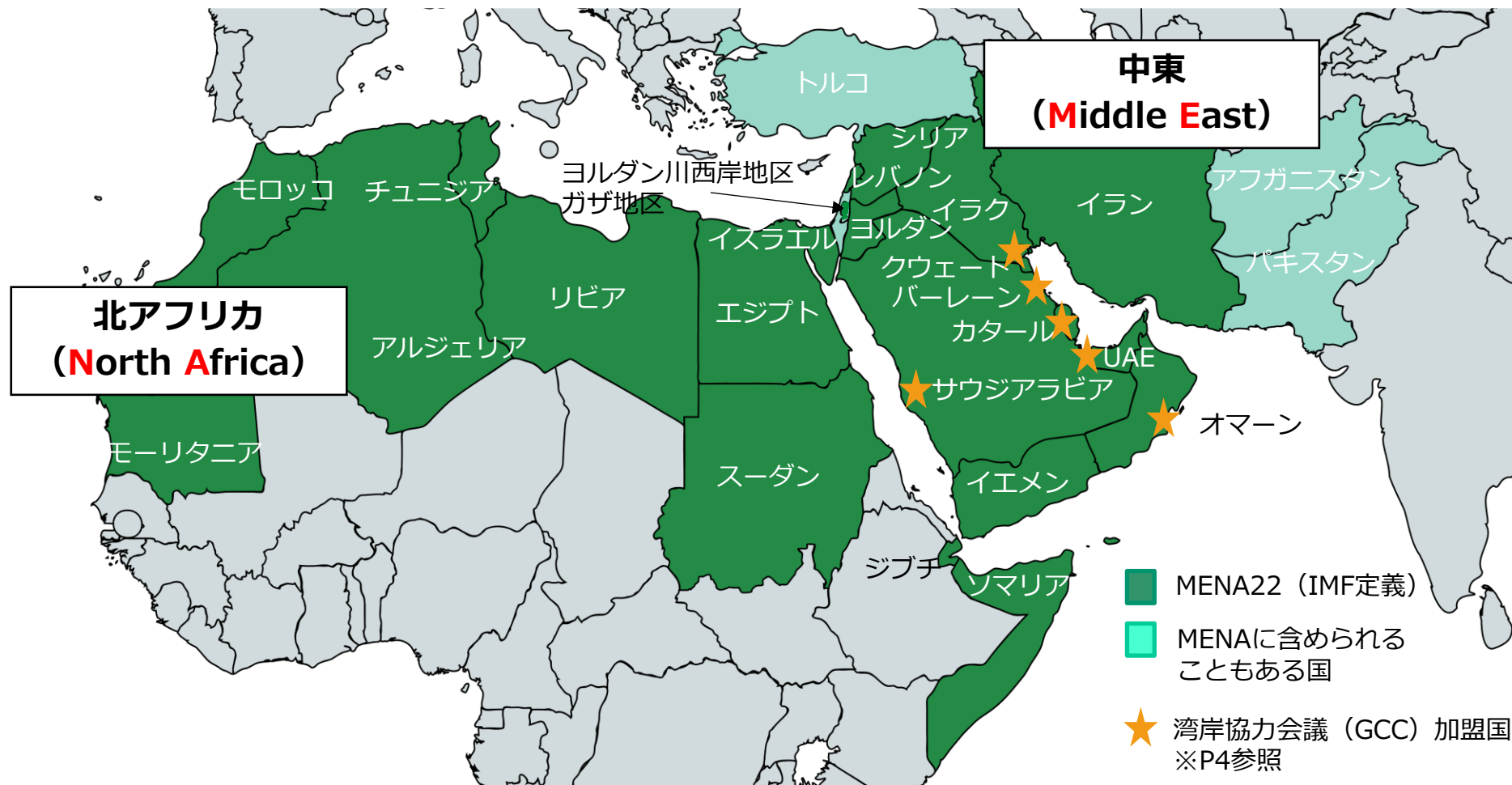
※本資料は、6月15日時点での発表を基に作成しています。最新情報は、各国政府や国際機関の発表などを参照してください。

※13頁のみ6月26日時点更新。



# 1 | 中東／中東・北アフリカ（MENA）地域とは

- 「中東・北アフリカ（MENA）」地域と括られることが多い。多くの国の基盤は**イスラム教**。
- 世界の**エネルギー供給源（石油・天然ガス）**、日本は原油の**94.0%**（2025年）を中東から輸入。
- 人口増加率が高く、若年層が厚い。**新興市場／グローバルサウス**の一角としても注目される地域。



(出所) ジェトロ作成

## 2 | 中東の主要関係国の概況

- イランは人口が中東最大規模の約8,800万人、国土面積は中東第2位。
- 名目GDPはサウジアラビアが約1.4兆ドル。イスラエルとアラブ首長国連邦（UAE）が6,000億ドル超。
- 1人当たりGDPは、イスラエル、UAEは世界的にも高水準。日本を上回る。

| 項目 / 国                 | イラン                     | イスラエル                       | UAE                  | サウジアラビア                 |
|------------------------|-------------------------|-----------------------------|----------------------|-------------------------|
| 面積                     | 約165万平方キロ<br>（日本の約4.4倍） | 約2.2万平方キロ<br>（四国程度）<br>（注1） | 約8.4万平方キロ<br>（北海道程度） | 約215万平方キロ<br>（日本の約5.7倍） |
| 人口<br>（2026年、推計）       | 約8,793万人                | 約1,031万人                    | 約1,147万人             | 約3,673万人                |
| 首都                     | テヘラン                    | エルサレム（注2）                   | アブダビ                 | リヤド                     |
| 政体                     | イスラム共和制                 | 共和制                         | 連邦制（7首長国）            | 君主制                     |
| 宗教                     | イスラム教他<br>（主にシーア派）      | ユダヤ教<br>イスラム教他              | イスラム教<br>（主にスンニ派）    | イスラム教<br>（主にスンニ派）       |
| 主な言語                   | ペルシャ語                   | ヘブライ語                       | アラビア語                | アラビア語                   |
| 名目GDP<br>（2026年、推計）    | 約3,003億ドル               | 約7,199億ドル                   | 約6,216億ドル            | 約1兆3,900億ドル             |
| 1人当たりGDP<br>（2026年、推計） | 約3,410ドル                | 約6万9,800ドル                  | 約5万4,210ドル           | 約3万7,810ドル              |

（出所）ジェトロウェブサイト（各国政府統計などを元に作成）、外務省。人口と名目GDP、1人当たりGDPはIMFの2026年推計値。

（注1）数字はイスラエルが併合した東エルサレム及びゴラン高原を含むが、右併合は日本を含め国際社会の大多数には承認されていない。

（注2）日本を含め国際社会の大多数には認められていない。

### 3 | 湾岸協力会議（GCC : Gulf Cooperation Council）

- 類似の王政・首長制を有する湾岸アラブ6カ国で形成（1981年発足。本部はサウジアラビアのリヤド）。防衛・経済などでの調整・統合・連携が目的。
- 域内貿易自由化、対外統一関税の導入（関税同盟）、GSO（規格認証）など。（注）
- 人口は6カ国合計で約6,100万人、資源国で1人当たりGDPは高い。外国人労働者比率が高いのも特徴。



#### <GCC加盟国>

- サウジアラビア
- アラブ首長国連邦（UAE）
- バーレーン
- オマーン
- カタール
- クウェート

「GCC諸国」などとまとめて呼ばれることが多い。

（注）GCC関税同盟についてはジェットロ調査レポート「[湾岸協力会議（GCC）関税同盟調査（2026年3月）](#)」をご参照ください。

## 4 | MENA地域には多数の資源国

- **資源国が多数**。原油、天然ガスが中心。
- 中東は世界の原油埋蔵量の**55.5%**（2025年）、原油生産量の**31.8%**（2025年）を占める。

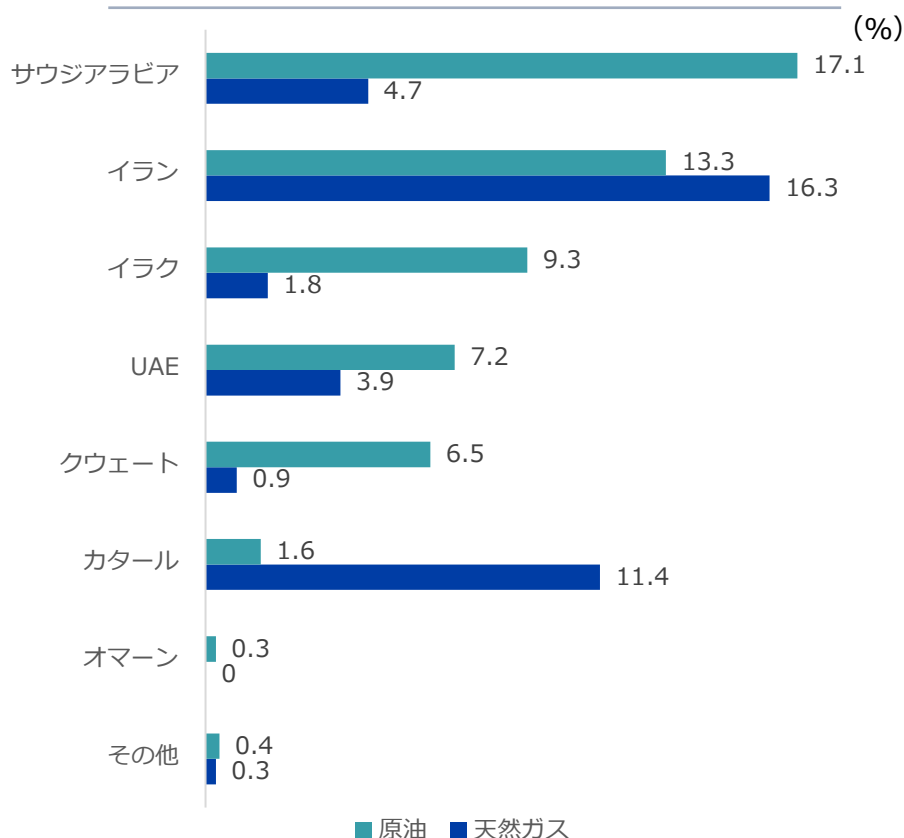
|               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| サウジアラビア       | 原油、天然ガス、金、銀、レアメタル、鉄鉱石、燐鉱石、ボーキサイト     |
| カタール          | 天然ガス、原油                              |
| アラブ首長国連邦（UAE） | 原油、天然ガス、クロム                          |
| イラン           | 原油、天然ガス、金、銅、銀、鉛、クロム、ボーキサイト、鉄鉱石、モリブデン |
| イラク           | 原油、天然ガス                              |
| クウェート         | 原油、天然ガス                              |
| オマーン          | 原油、天然ガス、金、銀、銅、クロム                    |
| バーレーン         | 原油、天然ガス                              |
| イスラエル         | 天然ガス                                 |
| トルコ           | 石炭、銅、鉛、亜鉛、ニッケル、ボーキサイト、アルミニウム冶金他      |
| ヨルダン          | —                                    |
| イエメン          | 原油、天然ガス、亜鉛                           |
| シリア           | 原油、天然ガス                              |
| レバノン          | —                                    |
| アフガニスタン       | クロム                                  |

（出所）経済産業省、JOGMEC、Energy Institute公開情報などを基にジェトロ作成

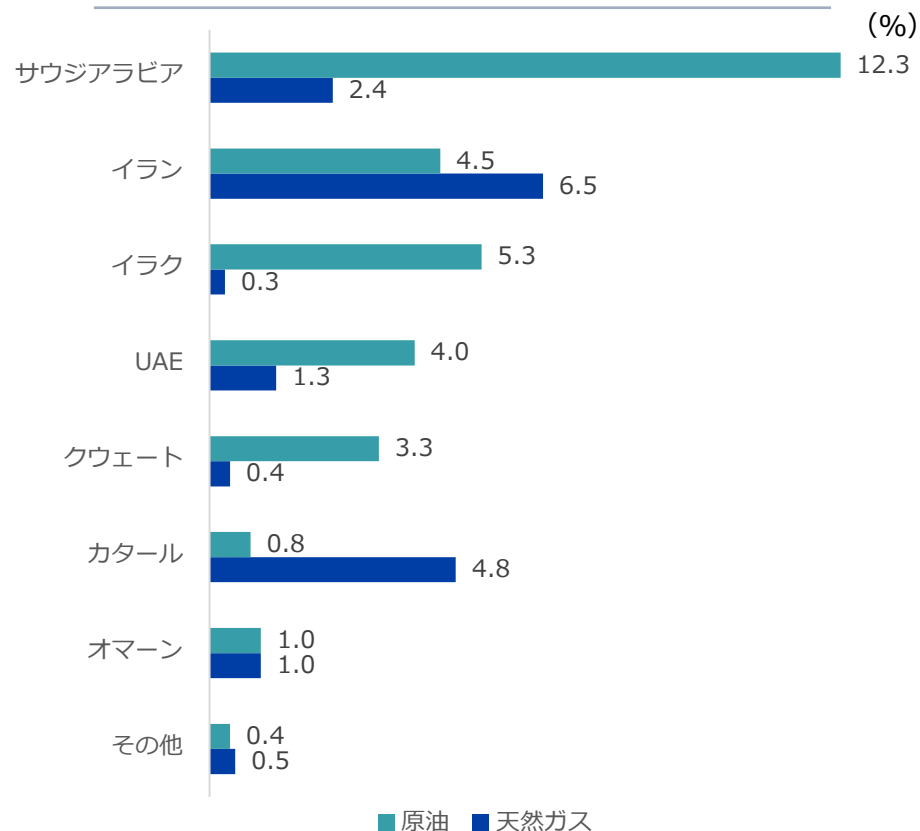
# 5 | 中東の資源埋蔵量、生産量シェア（原油・天然ガス）

- サウジアラビアが原油の埋蔵量世界シェアの17.1%を占める。天然ガスは中東地域で世界の埋蔵量の39.5%を占め、中でもイランが16.3%で域内最大（2024年）。
- 中東地域は原油生産量の世界シェア31.7%、天然ガス生産量の世界シェア17.2%を占める（2024年）。

中東の原油・天然ガスの埋蔵量シェア（2024年）



中東の原油・天然ガスの生産量シェア（2024年）



（出所）「2025 OPEC Annual Statistical Bulletin Organization of the Petroleum Exporting Countries 60th edition」を基にジェトロ作成

## 6 | 日本との貿易・投資動向（MENA主要国別）

- **産油国（UAE、サウジアラビア）**からは原油輸入額が大きく、**日本の大幅な輸入超過**。輸出は輸送機器が中心。
- 日本からの投資額（フロー）は近年、トルコやUAEが大きい。2025年、対UAE投資はマイナスに転じる。

### 日本とMENA主要国の輸出入（2025年）

（単位：100万円）（△はマイナス値）

| 国       | 日本の輸出     | 日本の輸入     | 収支          |
|---------|-----------|-----------|-------------|
| UAE     | 2,119,238 | 4,905,495 | △ 2,786,257 |
| サウジアラビア | 1,065,889 | 3,933,285 | △ 2,867,396 |
| トルコ     | 514,027   | 153,277   | 360,750     |
| イスラエル   | 193,154   | 250,586   | △ 57,432    |
| エジプト    | 113,111   | 12,292    | 100,819     |
| モロッコ    | 47,547    | 47,401    | 146         |
| イラン     | 9,650     | 3,421     | 6,229       |

（注1）MENA地域のジェトロ事務所所在7カ国を抽出。

（注2）各国と日本の主な貿易品目などはジェトロ貿易投資年報を参照。

（出所）財務省「貿易統計」を基にジェトロ作成

### 日本の対外直接投資（2023～2025年）

（単位：億円）（△はマイナス値）

| 国       | 2023年 | 2024年 | 2025年 |
|---------|-------|-------|-------|
| トルコ     | 558   | 408   | 705   |
| イスラエル   | 111   | △ 78  | 221   |
| サウジアラビア | △ 472 | △ 305 | 182   |
| エジプト    | 35    | 32    | 134   |
| モロッコ    | 84    | 1     | 15    |
| UAE     | 967   | 1,451 | △ 572 |
| イラン     | —     | —     | —     |

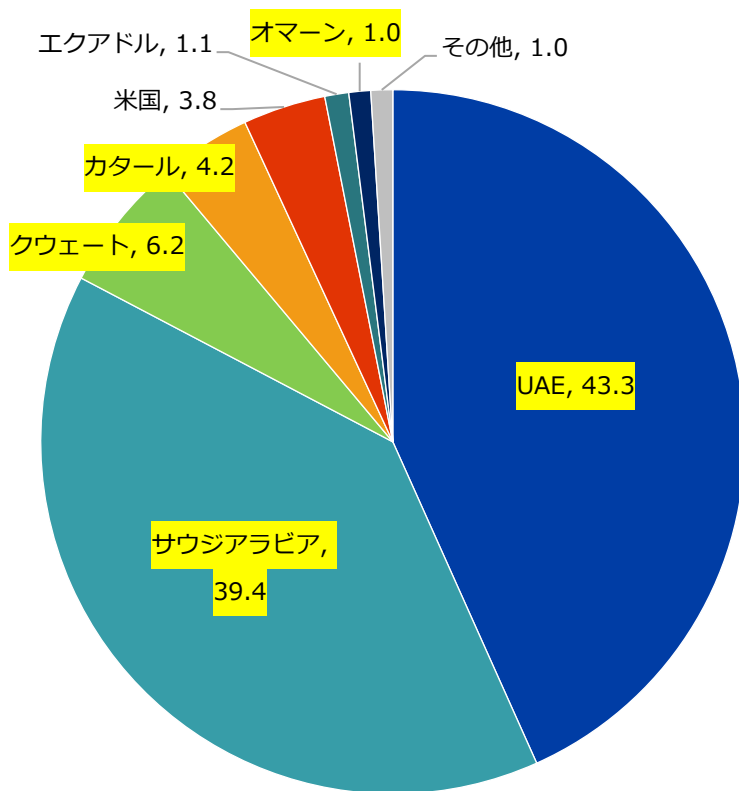
（注3）国際収支ベース、ネット、フロー

（出所）日本銀行「国際収支統計（業種別・地域別直接投資）」

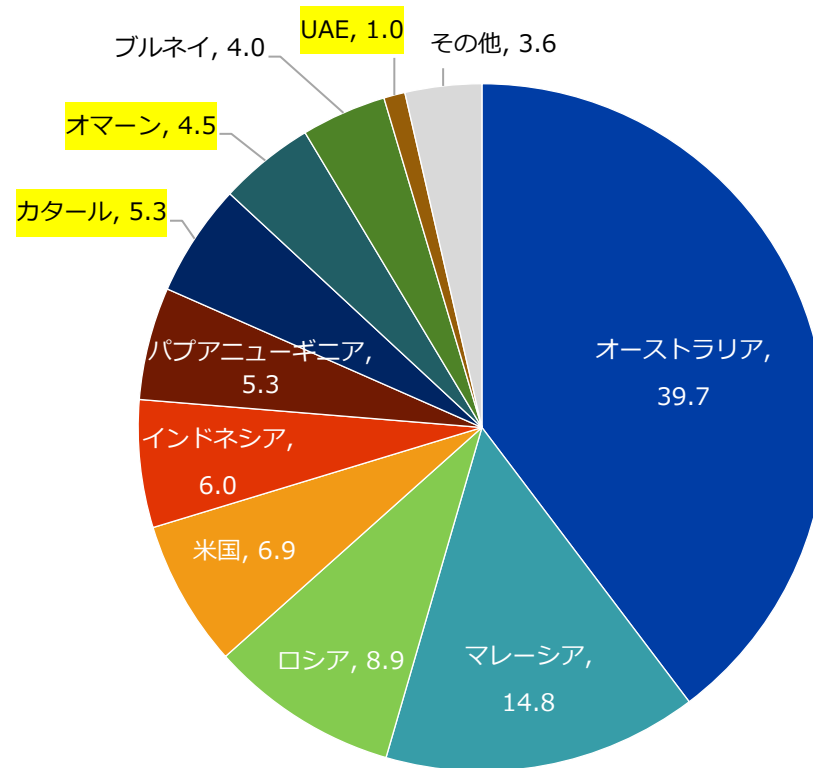
# 7 | 日本の化石燃料の輸入先（原油・LNG）

- 日本では化石燃料のほとんどを海外から輸入。特に**原油の中東依存度は9割を超える**。
- LNGについては、調達先の多角化が進み、中東依存度は約1割。

日本の原油の輸入先の割合（2025年・%）



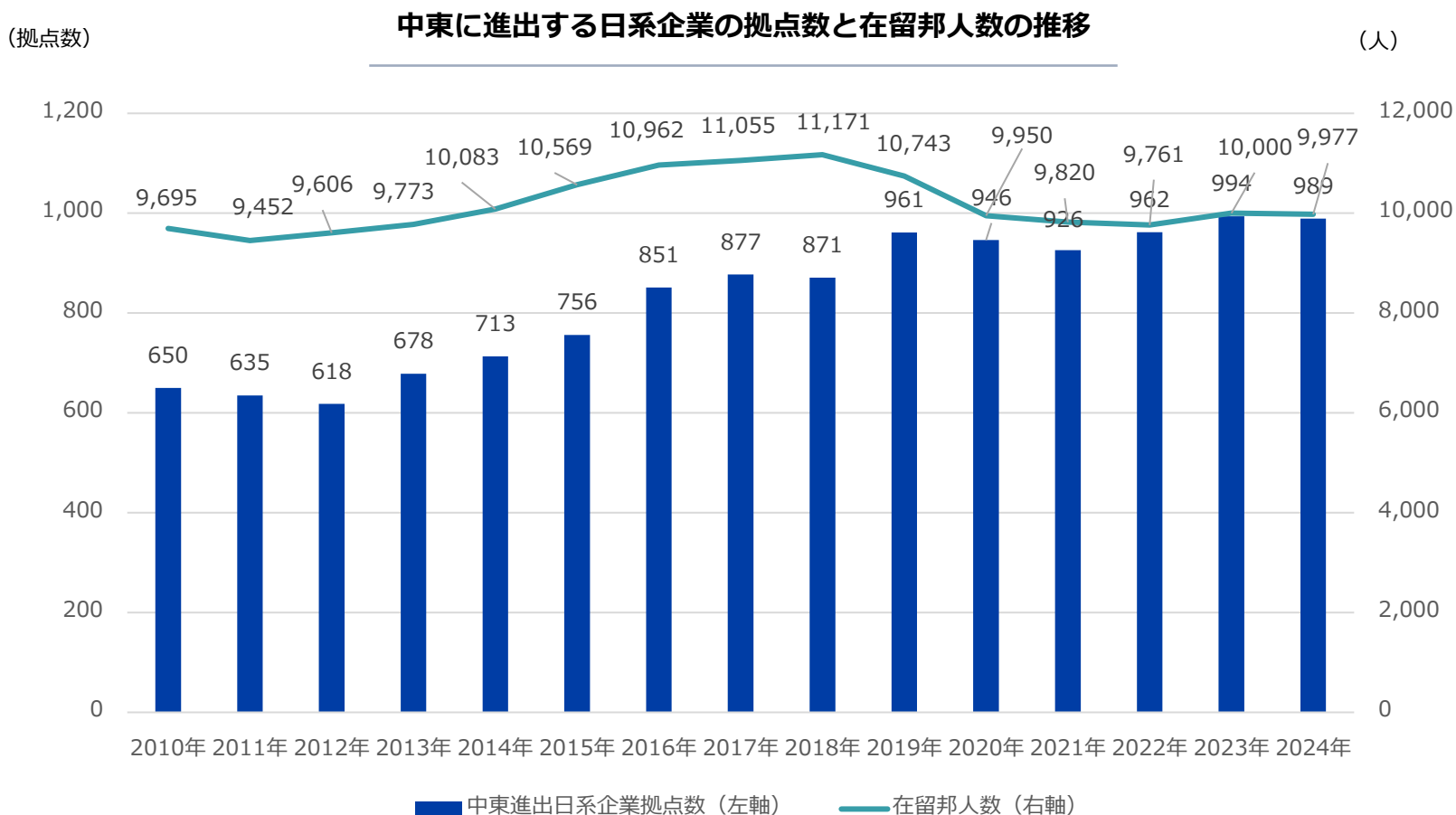
日本のLNGの輸入先の割合（2025年・%）



(注) 黄色は中東諸国  
 (出所) 経済産業省資源エネルギー庁資料を基にジェトロ作成

# 8 | 中東進出日系企業の拠点数と在留邦人数の推移

- 中東地域に進出している日系企業の拠点数（事務所数）は増加基調で989拠点（2024年10月時点）。
- 中東在留の邦人数は1万人前後で推移。



(注) 本スライドの中東に北アフリカは含まない。

(出所) 外務省「海外進出日系企業拠点数調査」および「海外在留邦人人数調査統計」を基にジェトロ作成

## 参考 | 中東に進出する日系企業の拠点数（2024年、国・地域別）

- 日系企業の拠点数はUAEが343（うちドバイ301）で引き続き最多。トルコ、サウジアラビアが続く。
- 過去10年では、UAEが1割強増で引き続き最多ながら、人口と経済規模の大きいトルコが3倍近く増加し、300台に。サウジアラビアは横ばい。

中東に進出する日系企業の拠点数（2024年、国・地域別）

| 国・地域名             | 企業拠点数 |            |
|-------------------|-------|------------|
|                   | 2024年 | (参考) 2014年 |
| アラブ首長国連邦          | 343   | 305        |
| 在アラブ首長国連邦大使館 管轄地域 | (42)  | (48)       |
| 在ドバイ総領事館 管轄地域     | (301) | (257)      |
| トルコ               | 302   | 113        |
| 在トルコ大使館 管轄地域      | (30)  | (12)       |
| 在イスタンブール総領事館 管轄地域 | (272) | (101)      |
| サウジアラビア           | 118   | 111        |
| イスラエルおよびガザ地区など    | 88    | 30         |
| カタール              | 32    | 45         |
| オマーン（注）           | 23    | 13         |
| イラン               | 21    | 33         |
| クウェート             | 19    | 16         |
| ヨルダン              | 18    | 21         |
| バーレーン             | 17    | 19         |
| レバノン              | 8     | 6          |
| イエメン              | -     | 1          |

(注) 計上単位が拠点数ではなく、法人数であるもの。  
(出所) 外務省「海外進出日系企業拠点数調査」など

## 参考 | 中東の在留邦人数（2024年、国・地域別）

- 在留邦人数では、UAEが中東全体の約半数を占めており圧倒的。トルコ、イスラエルが続く。
- 過去10年では、UAEが3割強増加の一方、トルコは減少、イスラエルは横ばい。

中東における在留邦人数（2024年、国・地域別）

| 国・地域名    | 在留邦人数 |            |
|----------|-------|------------|
|          | 2024年 | (参考) 2014年 |
| アラブ首長国連邦 | 4,775 | 3,543      |
| トルコ      | 1,756 | 2,049      |
| イスラエル    | 1,040 | 997        |
| サウジアラビア  | 661   | 925        |
| カタール     | 624   | 958        |
| イラン      | 314   | 622        |
| ヨルダン     | 231   | 332        |
| バーレーン    | 187   | 247        |
| クウェート    | 168   | 172        |
| オマーン     | 108   | 143        |
| レバノン     | 78    | 71         |
| パレスチナ    | 25    | -          |
| イエメン     | 10    | 24         |

(注) 中東の区分は、外務省によるもの。

(出所) 外務省「海外在留邦人人数調査統計」

# 9 | 米国・イスラエルとイランの主な情勢

2023年10月以降のイスラエル・米国とイランを中心とした主な動き

| 年     | 月   | 出来事  |
|-------|-----|--|
| 2023年 | 10月 | イスラエルに対してイスラム原理主義組織ハマスから攻撃があり、イスラエル軍が反撃  |
|       | 11月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イエメンの武装組織フーシ派が日本企業の運航船を拿捕</li> <li>・イスラエル政府とハマスの人質の一部解放と戦闘の一時停止で合意</li> </ul>  |
|       | 12月 | イスラエルとハマスの戦闘が再開  |
| 2024年 | 4月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イランがシリアの首都ダマスカスにあるイラン大使館領事部への爆撃の報復として、イスラエルへの攻撃を実施</li> <li>・イラン中部都市で爆発音</li> </ul>  |
|       | 11月 | イスラエルとレバノンが60日間の停戦に合意  |
| 2025年 | 1月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラエルとハマスの人質解放と停戦の合意を発表</li> <li>・トランプ米大統領が就任</li> </ul>   |
|       | 3月  | イスラエルがガザ地区で戦闘再開  |
|       | 4月  | 米国とイランがオマーン仲介による第1回の間接協議実施   |
|       | 6月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イランの核関連施設に対してイスラエルから先制的軍事攻撃があり、イランが反撃（「12日間戦争」）</li> <li>・トランプ米大統領、イスラエルとイランが停戦合意と投稿</li> </ul>  |
|       | 7月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トランプ米大統領、イスラエルがガザ地区における停戦条件に合意と投稿</li> <li>・イスラエル、イエメンのフーシ派拠点を空爆</li> </ul>  |
|       | 9月  | 米国ホワイトハウスが「20項目のガザ和平案」を公表  |
|       | 10月 | ハマスの人質解放に条件付き合意  |
| 2026年 | 2月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イランと米国、間接協議をオマーンのマスカット、スイスのジュネーブで開催</li> <li>・イスラエルと米国がイランを攻撃、イランは湾岸諸国も対象に反撃</li> </ul>  |
|       | 3月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルムズ海峡の通航が停止状態に</li> <li>・イラン新たな最高指導者にモジュタバー・ハーメネイー氏が就任（米国・イスラエルの攻撃でアリー・ハーメネイー前最高指導者が死去）</li> </ul>  |
|       | 4月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国がイランと2週間の停戦合意、イラン外相は「ホルムズ海峡の安全な通航」承認表明</li> <li>・米イラン協議は「核問題」で合意に至らず、米中央軍はイランに出入港する船舶封鎖へ</li> <li>・イスラエルとレバノン、10日間の停戦合意が発効</li> <li>・トランプ米大統領が停戦延長を表明、イラン側は「無意味」と反発</li> <li>・トランプ米大統領、イスラエル・レバノン停戦の3週間延長を発表</li> <li>・日本の外務省、日本関係船舶1隻がホルムズ海峡を通過と発表</li> </ul> |
|       | 5月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・トランプ米大統領、ホルムズ海峡船舶通航支援作戦の一時停止を発表</li> <li>・イランが米停戦案に回答提出も、トランプ大統領「受け入れられない」</li> <li>・米中首脳会談、イラン核問題とホルムズ海峡で認識一致</li> </ul>  |
|       | 6月  | トランプ米大統領、イラン合意「完了」を表明  |

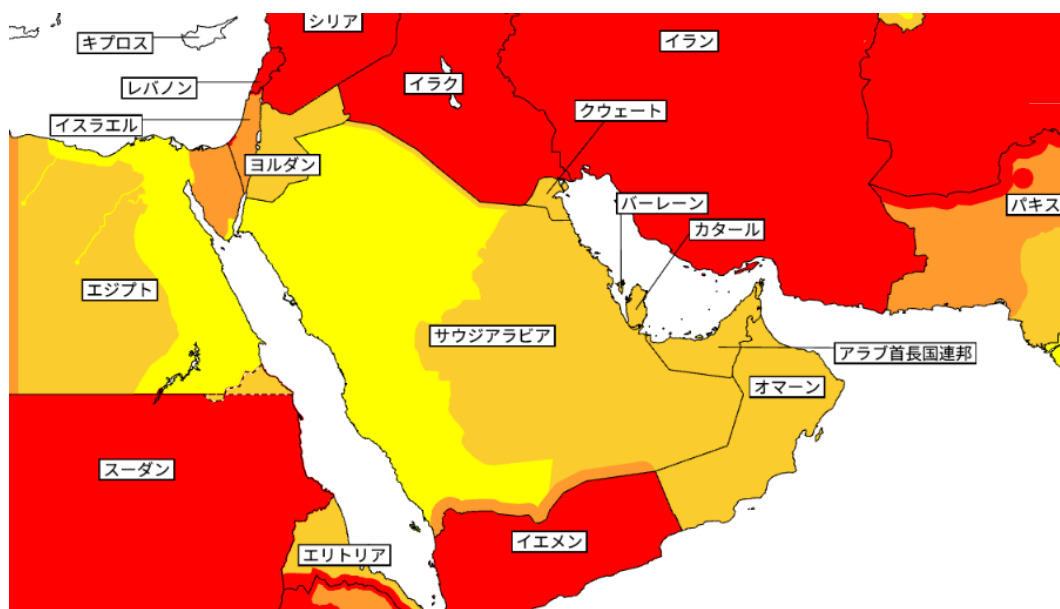
(注) 2026年6月15日時点の情報を基に作成。最新情報はジェットロビジネス短信特集「イスラエルとハマスの衝突に関する動き、各国の反応」「イスラエル・米国とイランの衝突に関する中東情勢、各国の反応」をご参照ください。

(出所) ジェトロビジネス短信を基にジェットロ作成

# 10 | 中東の地政学的リスクや治安情勢

- 2023年10月以降**イスラエルとハマスの衝突**や**紅海でのフーシ派による攻撃**が地政学的リスクに。
- **2026年2月にイスラエルと米国はイランに対して攻撃を実施。イランはこれに反撃するとともに、周辺の中東諸国を攻撃。日本外務省は、湾岸地域の危険レベルも3に引き上げ**（注1）。
- 外務省は5月13日に一部の国・地域に「**真にやむを得ない事情**」がある場合に**渡航・滞在を妨げない旨のただし書き**を追記（注2）。6月25日には**一部諸国・地域の危険レベルが2へ引き下げられた**（注3）。

中東地域海外安全情報（2026年6月26日時点）



(注1) 黄色：レベル1（十分注意）、濃い黄色：レベル2（不要不急の渡航はやめてください）、だいたい色：レベル3（渡航中止勧告）、赤色：レベル4（退避勧告）

(注2) 2026年5月13日時点で、バーレーン、クウェート、オマーン、カタール、UAE、サウジアラビア（リヤド州、東部州のみ）、ヨルダンに但し書きが追加され、「各国における復旧・復興に寄与する企業・団体の取り組みなど、真にやむを得ない事情がある場合には、同国・地域へ渡航・滞在することを妨げない」とした。

(注3) 2026年6月25日時点で、UAE、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア（リヤド州、東部州のみ）、バーレーン、ヨルダン（マフラク県、ザルカ県のみ）の危険レベルが2へ引き下げられた。

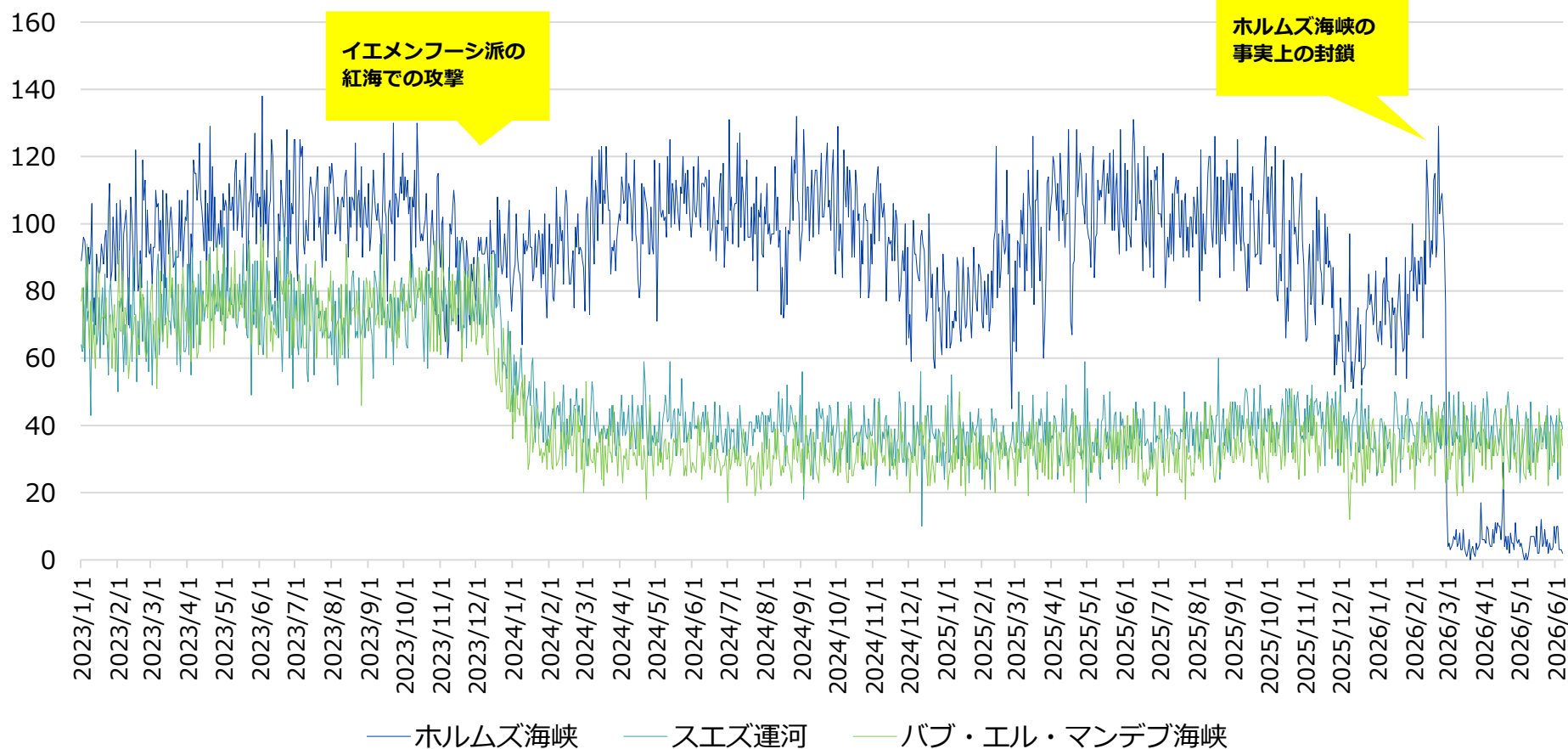
(出所) 外務省海外安全ホームページ（2026年6月26日時点） ※必ず最新の安全情報をご確認ください。



# 12 | ホルムズ海峡

- 2026年3月30日から5月10日までの約6週間におけるホルムズ海峡における通航隻数（1日当たり）の平均は6.6隻、前年同期の104.5隻から激減。2025年の1日当たり平均は93.7隻。
- 紅海でのイエメンのフーシ派による船舶攻撃により、2023年以降、スエズ運河の通航も減少。

### 中東のチョークポイントでの通過隻数（1日当たり）の推移



(出所) IMF Portwatchを基にジェットロ作成

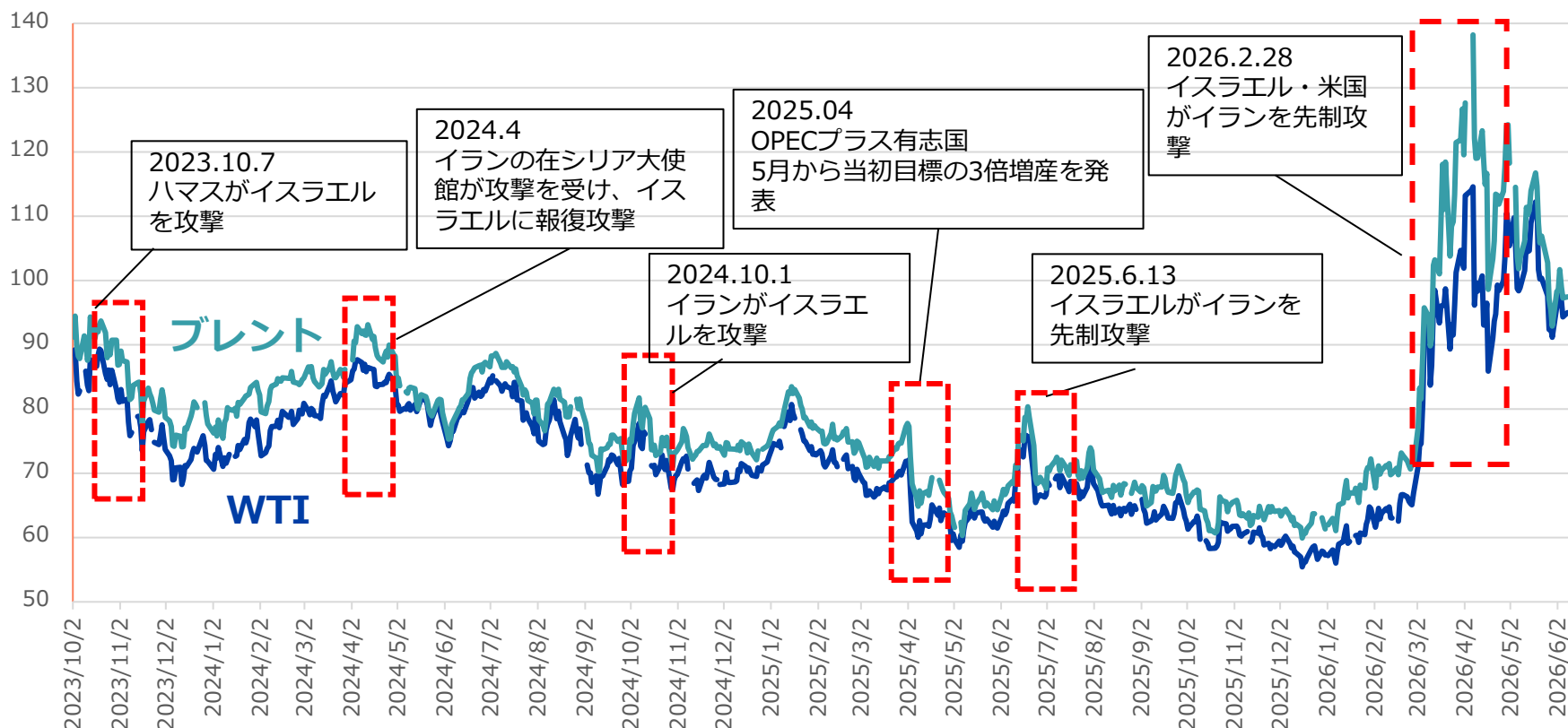
(注) 本統計はAIS（船舶自動識別装置）に基づいており、AISを停止して航行している船舶は含まれない。

# 13 | 原油価格の動向

- 2023年10月のハマスとイスラエルの衝突以降、地域の緊張が高まるたびに油価が一時上昇していたが、OPECプラスの増産も後押しし、2025年4月以降は1バレル50～70ドル台を推移していた。
- 2026年2月のイスラエル・米国によるイランへの先制攻撃以降、ホルムズ海峡の通航停止状態も受け、**ブレントでは一時1バレル約120ドルまで上昇**（2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降初めて）。

原油価格の推移（2023年10月～2026年6月8日）

（単位：ドル/バレル）



（注）数値が未発表の日付もある。

（出所）米国エネルギー情報局（EIA）を基に作成

# 14 | 中東情勢の影響 (1) 世界経済

- IMFは最新の世界経済見通しで、2026年の世界経済の実質GDP成長率は3.1%と、1月時点予測(3.3%)から0.2ポイント下方修正。消費者物価指数上昇率は2025年の4.1%から26年は4.4%に加速見込み。
- IMFは、中東情勢がより悪化、深刻化した場合の2つのシナリオも提示。2026年の成長率は2%まで低下、インフレは6%近くまで上昇の可能性も。

世界および主要国・地域の実質GDP成長率

(単位：%、ポイント)  
(△はマイナス値)

| 国・地域         | 2025年<br>伸び率 | 2026年(予測値) |      | 2027年(予測値) |      |
|--------------|--------------|------------|------|------------|------|
|              |              | 伸び率        | 前回差  | 伸び率        | 前回差  |
| 世界           | 3.4          | 3.1        | △0.2 | 3.2        | 0.0  |
| 先進国・地域       | 1.9          | 1.8        | 0.0  | 1.7        | 0.0  |
| 米国           | 2.1          | 2.3        | △0.1 | 2.1        | 0.1  |
| ユーロ圏         | 1.4          | 1.1        | △0.2 | 1.2        | △0.2 |
| 日本           | 1.2          | 0.7        | 0.0  | 0.6        | 0.0  |
| 新興・途上国・地域    | 4.4          | 3.9        | △0.3 | 4.2        | 0.1  |
| アジア新興・途上国・地域 | 5.5          | 4.9        | △0.1 | 4.8        | 0.0  |
| 中国           | 5.0          | 4.4        | △0.1 | 4.0        | 0.0  |
| インド          | 7.6          | 6.5        | 0.1  | 6.5        | 0.1  |
| ASEAN5カ国     | 4.5          | 4.1        | △0.1 | 4.4        | 0.0  |
| 欧州新興・途上国・地域  | 2.0          | 2.0        | △0.3 | 2.1        | △0.3 |
| ロシア          | 1.0          | 1.1        | 0.3  | 1.1        | 0.1  |
| 中南米・カリブ諸国    | 2.4          | 2.3        | 0.1  | 2.7        | 0.0  |
| ブラジル         | 2.3          | 1.9        | 0.3  | 2.0        | △0.3 |
| メキシコ         | 0.6          | 1.6        | 0.1  | 2.2        | 0.1  |
| 中東・中央アジア     | 3.6          | 1.9        | △2.0 | 4.6        | 0.6  |
| サウジアラビア      | 4.5          | 3.1        | △1.4 | 4.5        | 0.9  |
| サブサハラアフリカ    | 4.5          | 4.3        | △0.3 | 4.4        | △0.2 |
| ナイジェリア       | 4.0          | 4.1        | △0.3 | 4.3        | 0.2  |
| 南アフリカ共和国     | 1.1          | 1.0        | △0.4 | 1.3        | △0.2 |

中東情勢のシナリオ別のIMF予測 (単位：%)

|        |        | 2026年 | 2027年 |
|--------|--------|-------|-------|
| GDP成長率 | 参照予測   | 3.1   | 3.2   |
|        | 悪化シナリオ | 2.5   | 3.0   |
|        | 深刻シナリオ | 2.0   | 2.2   |
| CPI上昇率 | 参照予測   | 4.4   | 3.7   |
|        | 悪化シナリオ | 5.4   | 3.9   |
|        | 深刻シナリオ | 5.8   | 6.1   |

(注) 参照予測は、中東情勢が短期に収束した場合。悪化シナリオは紛争の長期化を想定したもの。深刻シナリオはさらに影響が大きく長期化すると想定したもの。

(出所) IMF世界経済見通し(2026年4月)よりジェトロ作成  
(参考) 中東情勢悪化で世界経済は減速、IMF見通し(世界) | ビジネス短信 — ジェトロの海外ニュース - ジェトロ

(注1) 地域分類はIMFによる。ASEAN5カ国はインドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ。

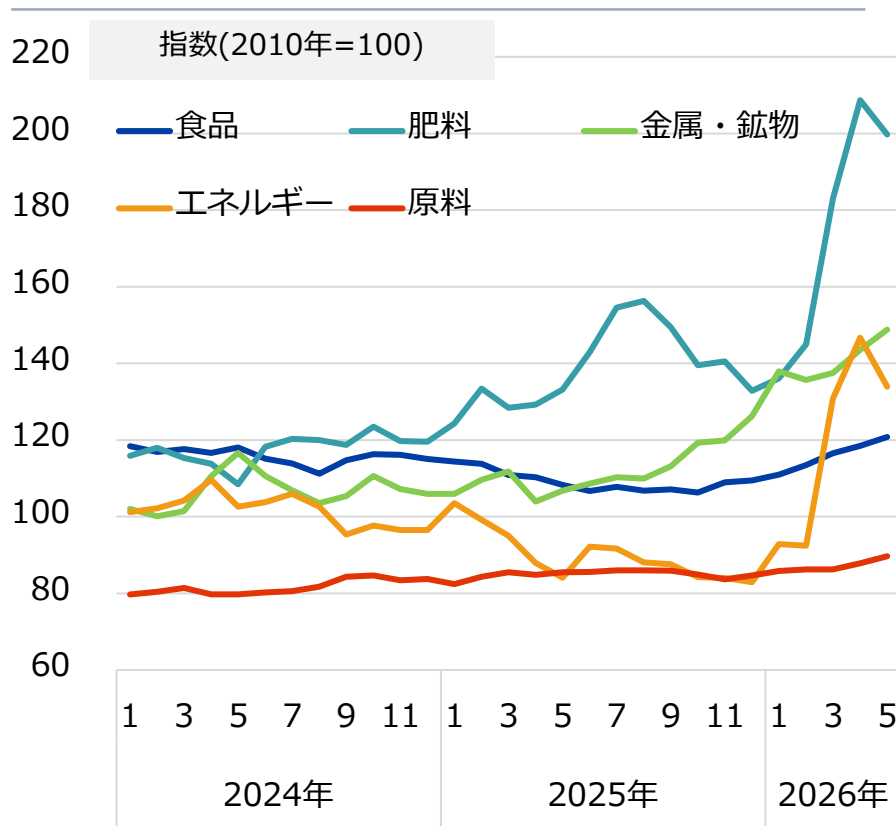
(注2) インドは会計年度ベース。(注3) 前回差は、IMF「世界経済見通し」2026年1月予測値との差。

(出所) IMF世界経済見通し(2026年4月)よりジェトロ作成

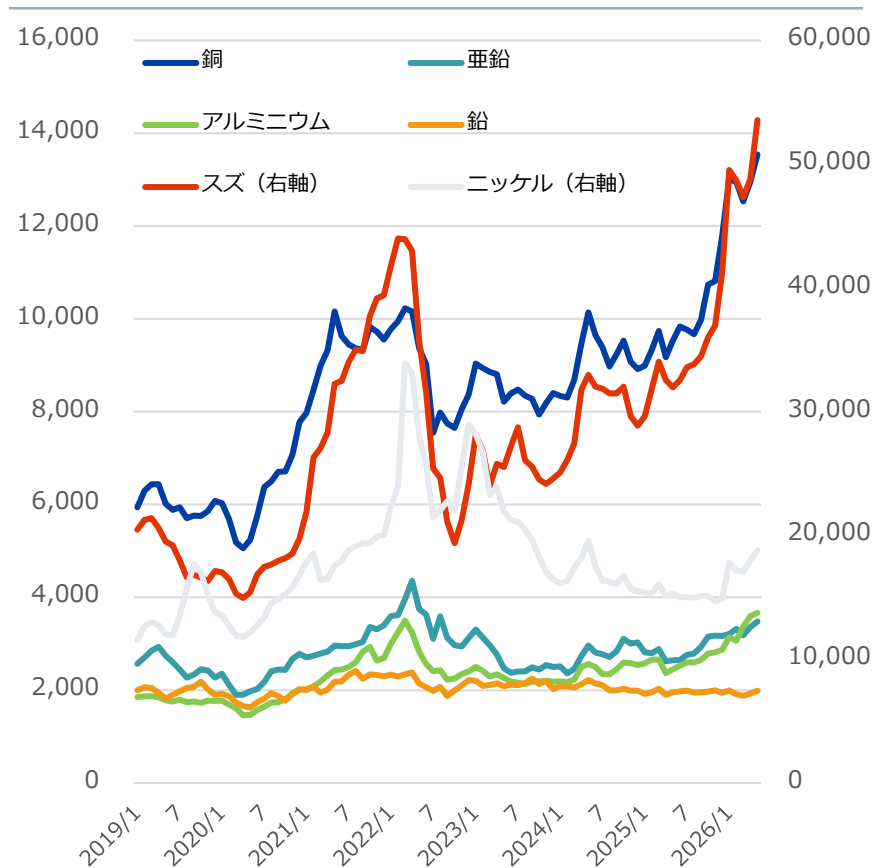
# 参考 | 一次産品価格の動向

- 肥料・金属・鉱物価格やエネルギー価格は地政学リスクの高まりにより2026年以降、高騰。
- 非鉄金属は2021年後半のコロナ禍による供給混乱で高騰後下落傾向にあったが、脱炭素化に欠かせない銅や半導体で利用されるスズ、バッテリー材料のニッケルなどが2024年度以降再び高騰。

一次産品価格見通し（指数ベース）（2024～2026年、月次）



非鉄価格の推移（2019年～2026年5月、月平均）  
(ドル/mt)



(注) 月平均。

(出所) World Bank. Commodity markets outlook (2026年5月)

# 15 | 中東情勢の影響 (2) 中東経済

- 2026年4月のIMFの発表によると、情勢悪化の影響で**MENA地域、特にGCC諸国の2026年実質GDP成長率予測は、前回（2025年10月）から下方修正。**

## 世界、中東・MENA地域・諸国の実質GDP成長率

(△はマイナス値)

|         | 2025年       | 2026年予測      | 2027年予測    |
|---------|-------------|--------------|------------|
| 世界      | 3.4 (△0.1)  | 3.1 (△0.2)   | 3.2 (0.0)  |
| MENA    | 3.2 (△0.1)  | 1.1 (△2.6)   | 4.8 (1.1)  |
| GCC     | 4.4 (0.5)   | 2.0 (△2.3)   | 4.8 (0.9)  |
| UAE     | 5.8 (1.0)   | 3.1 (△1.9)   | 5.3 (0.6)  |
| サウジアラビア | 4.5 (0.5)   | 3.1 (△0.9)   | 4.5 (1.3)  |
| クウェート   | 3.5 (0.9)   | △0.6 (△4.5)  | 2.8 (0.5)  |
| バーレーン   | 3.1 (0.2)   | △0.5 (△3.8)  | 4.5 (1.2)  |
| カタール    | 2.8 (△0.1)  | △8.6 (△14.7) | 8.6 (0.8)  |
| オマーン    | 2.4 (△0.5)  | 3.5 (△0.5)   | 3.4 (△0.3) |
| イラン     | △1.5 (△2.1) | △6.1 (△7.2)  | 3.2 (1.6)  |
| エジプト    | 4.4 (0.1)   | 4.2 (△0.3)   | 4.8 (0.1)  |
| モロッコ    | 4.9 (0.5)   | 4.9 (0.7)    | 4.5 (0.5)  |
| イスラエル   | 2.9 (0.4)   | 3.5 (△0.4)   | 4.4 (1.1)  |
| トルコ     | 3.6 (0.1)   | 3.4 (△0.3)   | 3.5 (△0.2) |

## <中東経済への主な影響>

- 中東地域の旅行・観光分野に1日当たり6億ドルの損失  
(2026/3/11 世界旅行ツーリズム協会)
  - 2026年の中東のサービス貿易が9.2%まで落ち込む可能性  
(2026/3/19 WTO)
  - アラブ諸国は1カ月当たり1,500億ドルの経済的損失  
〔2026/3/19 国連西アジア経済社会委員会 (ESCWA) 〕
  - GCC諸国でGDPの5.2%~8.5%、レバント地域(注3)で5.2%~8.7%の経済的損失  
〔2026/3/31 国連開発計画 (UNDP) 〕
  - アラブ諸国の低・中所得国で新たに500万人が食料不安に陥る可能性  
(2026/4/2 ESCWA)
  - 2026年4月の中東地域の航空貨物需要は前年同月比18.2%減、輸送能力は同22.9%減  
〔2026/5/28 国際航空運送協会 (IATA) 〕
  - 2026年4月の中東の航空会社の旅客輸送需要は前年同月比48.1%減、旅客輸送能力は同38.4%減 (2026/5/28 IATA)
- (注3) レバノン、シリア、イラク、ヨルダン、パレスチナ自治区  
(出所) ジェトロビジネス短信

(注1) カッコ内は前回(世界:2026年1月、その他の地域・国:2025年10月)の数値からの変化。単位はポイント。

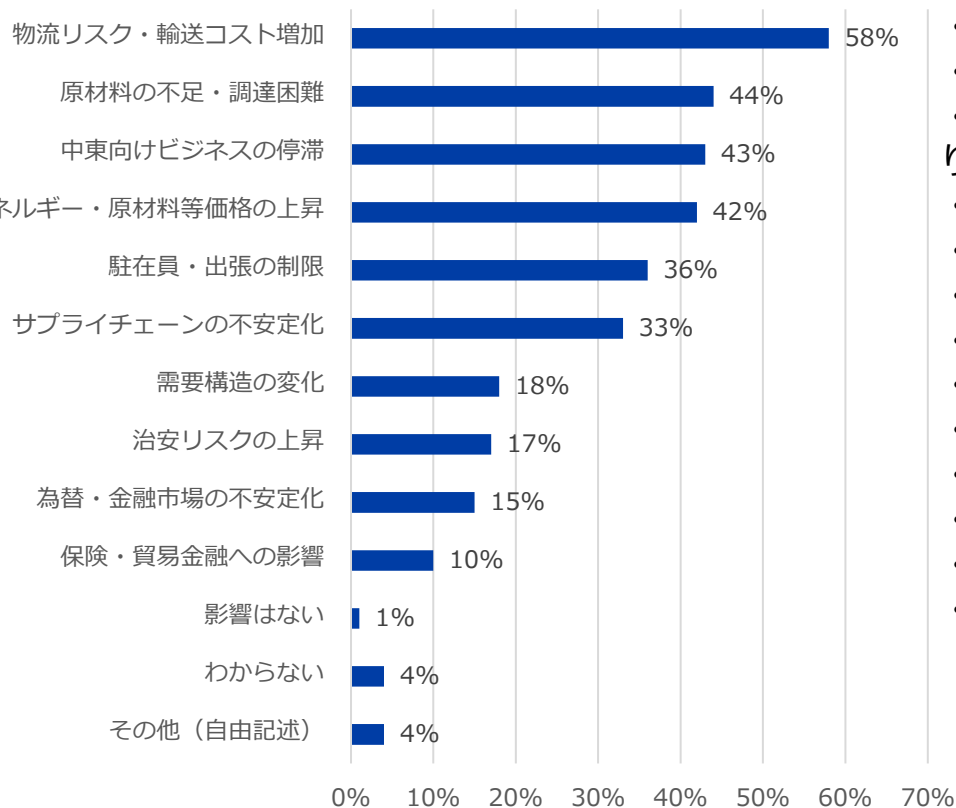
(注2) MENAにシリアは含まない

(出所) IMF (2026年4月、2026年1月、2025年10月)

# 16 | 日本企業の中東情勢による影響と対応例

- ジェトロが2026年5月28日に実施したアンケートによると、中東情勢の変化が日本企業のビジネスに及ぼしている影響として「**物流リスク・輸送コスト**」「**原材料の不足・調達困難**」「**中東向けビジネスの停滞**」「**エネルギー・原材料価格の上昇**」などが多く挙げられた
- 対応策としては、**代替輸送ルートの調査**や**調達先との連携**、**製品価格への転嫁**などが挙げられた

## 中東情勢の変化がビジネスに及ぼしている影響＜複数回答＞



## ＜ビジネスへの影響に対して、実施（予定含む）している対応＞

- ・ 中期生産計画の見直しおよび調達先との連携
- ・ 入手困難で納期の長い材料・部品の確保
- ・ 包材の種類統一、包装の変更、デザイン印刷の取り止めなど
- ・ ユーザーへの説明、買いだめなどの予備発注の抑制
- ・ 現地とのコネクションの継続
- ・ 製品価格への転嫁
- ・ 当面の出張禁止
- ・ 危険レベル3への但し書追記に伴う駐在員の復帰
- ・ ゴールデンウィーク明け以降の技術者派遣の加速
- ・ 空輸便による緊急回避対応
- ・ ホルムズ海峡を避ける代替輸送ルートの調査
- ・ 船会社の様子見、経過観察
- ・ 自社対応はなし

(注) 自由記述回答は、回答意図を明確にするため、原文の趣旨を損なわない範囲で加筆修正などを加えている。  
 (出所) 2026年5月28日ジェトロ主催「第3回中東諸国における近況報告会」アンケートを基にジェトロ作成

# 17 | 中東情勢に関する日本政府の取組

- 日本政府は、様々な外交に加え、高市首相が参加する「中東情勢に関する関係閣僚会議」を開催。
- 関係省庁はポータルサイトを立ち上げ、相談対応や情報提供、流通円滑化対策、政府系金融機関による対応などを推進。

## 【政府の関連ウェブサイト】

内閣官房 : 中東情勢に関する関係閣僚会議

経済産業省 : 中東情勢関連対策ワンストップポータル

- ・ 資源エネルギー庁「石油及び関連製品等に対する対応」

※「燃料油」「石油由来の化学品・製品等」「トルエン・キシレン」の情報提供を受け付けている

- ・ 中小企業庁「中小企業・小規模事業者向け支援」

農林水産省 : 中東情勢関連対策ポータル※「燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口」設置

国土交通省 : 中東情勢関連対策ワンストップポータル※「燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口」設置

厚生労働省 : 中東情勢関連対策ワンストップポータル※「医薬品、医療機器及び医療物資等の供給に関する情報提供窓口」設置

環境省 : 環境省中東情勢対策ポータル※「燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口」設置

外務省 : 地域別インデックス「中東」

海外安全ホームページ : 中東の海外安全情報一覧



経済産業省 中東情勢関連ワンストップポータル

# 参考 | ジェトロ「海外ビジネス情報」ページのご案内（1）

- ジェトロは刻々と変化する世界主要国・地域の動向を網羅的に、より分かりやすく、スピーディーに **ウェブサイトを通じて無料で**提供しています。

## ジェトロ「中東ページ」（無料）

QRコードはこちら



### ジェトロ「中東」ページ（無料）

中東主要国の基礎的情報や貿易投資制度情報、ビジネスニュース、イベント情報などを集約。



### ジェトロ・ビジネス短信（無料）

世界主要国・地域の政治・経済に関する制度、統計、市場動向などを中心にコンパクトに発信。



### ジェトロ地域・分析レポート（無料）

世界主要国・地域の政治・経済の動向について、ジェトロが独自の視点で行う「分析」。



### メールマガジン 「ジェトロ中東アフリカNews」（無料）

中東アフリカのビジネス短信や調査レポート、ジェトロのイベントを毎週火曜日に無料で配信。



### 貿易投資相談（無料）

輸出入や海外進出の実務のご相談に対して、経験豊富なアドバイザーがご対応。



|  |   |   |
|--|---|---|
| <h4>ビジネス短信</h4> <p>2026年04月08日<br/>コロンビア中銀、政策金利を11.25%に引き上げ</p> <p>2026年04月08日<br/>中東情勢悪化で、アラブ地域の水と食料の供給に影響、国連機関が報告</p> <p>2026年04月08日<br/>ドイツ化学大手BASF、広東省湛江市の統合生産拠点が全面稼働</p> <p>2026年04月08日<br/>サウジアラビア、2025年の娯楽セクター来場者数が8,900万人超に</p> <p>2026年04月07日<br/>GCC諸国や日本など世界の関係各国、国際機関が中東情勢やホルムズ海峡について会談</p> <p>もっと見る</p> | <h4>特集</h4> <p> 特集：イスラエル・米国とイランの衝突を巡る中東情勢関連情報</p> <p> 地政学リスクと経済安全保障</p> <p> 特集：サプライチェーンと人権</p>                                  | <h4>イベント情報</h4> <p>Japan Content Pitch in Türkiye トルコ・コンテンツピッチ2026(トルコ・イスタンブール)</p> <p>開催会・開演会<br/>2026年06月18日</p> <p>第2回・中東諸国における近況報告会(東京)</p> <p>セミナー・講演会<br/>2026年04月10日<br/>中東地域駐在員等によるオンライン相談会(オンライン開催)</p> <p>相談会 ショッピングあり<br/>2026年04月02日～2026年04月09日</p> <p>大阪・関西からリヤドへ！サウジアラビア・ビジネスセミナー(大阪)<br/>2026年03月16日</p> <p>もっと見る</p> |
| <h4>地域・分析レポート</h4> <p>2026年03月18日<br/>ウズベキスタンのグリーン、中東・中国台頭下で探る日本企業の可能性</p> <p>2026年01月08日<br/>「日本独自のスパイス、東洋の高級ハーブ」生</p>  | <h4>動画</h4> <p>動画レポート（世界は今） もっと見る</p> <p> 日本の伝統的な家業が世界へ外国人が評価するポイントとは</p> <p>ウェブセミナー もっと見る</p> <p> 経済するUAE/ドバイにおける日本食ポテンシャル</p> | <h4>ジェトロの支援サービス</h4> <p>ご相談の受付</p> <p> 貿易投資相談<br/>輸出入や海外進出のご相談（無料）</p>  |

## 参考 | ジェトロ「海外ビジネス情報」ページのご案内（2）

- **イスラエル・米国とイランの衝突を巡る中東情勢**について、ビジネス短信や関連情報をまとめてご紹介する特設ページを公開。中東のみならず、世界各国・地域のジェトロ事務所から日々、最新情報を発信。
- **中東・北アフリカ地域の物流・インフラプロジェクト**の動向をまとめた調査レポートや企業の取り組みなどを具体的に紹介する特集ページも公開。

### 【特集：イスラエル・米国とイランの衝突を巡る中東情勢関連情報】

イスラエル・米国とイランの衝突を巡る中東情勢に関連する政治・経済動向や各国・地域の経済概況について、ビジネス短信や調査レポートなどをご紹介するページです。



### 【ビジネス短信特集：イスラエル・米国とイランの衝突に関する中東情勢、各国の反応】

中東情勢の動向および各国・地域の反応について、日々発信しているビジネス短信をまとめてご覧いただけます。



### 【地域・分析レポート特集：激動の中東情勢：中東各国への影響と展望】

中東・北アフリカ地域について、物流・貿易や各産業の直近の動向、企業の取り組みなどを追いつつ、各国政府の対応や情勢に応じた経済政策なども調査・分析するページです。



### 【中東・北アフリカ地域における物流・インフラプロジェクトの動向（2026年1月）】

中東・北アフリカ地域の紅海ルートや代替物流ルートや進行中のインフラプロジェクトを地図を用いて紹介するレポートです。



### 【特集：中東・アフリカにおける物流とインフラプロジェクトの動向を探る】

代替物流ルートや進行中のインフラプロジェクト、企業の取り組みを具体的に紹介する特集です。



日本貿易振興機構（ジェトロ）



03-3582-5180

調査部中東アフリカ課



ORH@jetro.go.jp



〒107-6006

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

## ■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

### 禁無断転載

※本資料は6月15日時点での発表を基に作成しています。

最新情報は、各国政府や国際機関の発表などを参照してください。

※13頁のみ6月26日時点更新。